

田辺工業高等学校

実施日時	令和3年 12月 14日 (火)
参加者	生徒129名、教職員8名、地域住民等0名 計137名
実施内容	防災講演 救命救急、救命器具教育 ロープワーク

ねらい

- 1 災害発生時に生徒達が自らの判断で迅速に避難し、対応できる力を身につけさせる。
- 2 共助の意識を高め地域に貢献できる防災リーダーの育成を目指す。

主なプログラム

1 防災講演

自衛隊和歌山地方協力本部本部長による講演では災害現場の活動状況の説明、救命救急や復旧活動の経験談、災害時の対処方法の紹介から救命救急の大切さを学んだ。

2 ワークショップ

- 1) 救命救急
- 2) 救命器具教育
- 3) ロープワーク



Fig.1 防災講演の様子



Fig.2 救命救急訓練の様子

※今年度は新型コロナ感染拡大防止のため、炊き出し訓練は中止した。

概要

- 1 打ち合わせ 自衛隊（和歌山地方協力本部田辺地域事務所）と事前打ち合わせ
- 2 事前説明 生徒に向けてホームルームにて事前に内容説明と班分け
- 3 対象者 1 学年生徒および1 学年職員対象に高校生防災スクールを実施

参加者感想文

- ・自衛隊の方から大震災の話聞いて、訓練を活かした行動の大切さを改めて思った。
- ・防災スクールや避難訓練での体験や知識を活かして地域に協力したいと思った。
- ・地震や津波に備えて準備しておく事が重要だと感じた。
- ・自衛隊の皆さんの助けが多くの人々の救いになっていると思った。

成果と課題

【成果】

新型コロナウイルス感染症拡大の兆しが見える時期ではあったが、感染防止対策を講じて今年も開催することが出来た。自然災害については感染症の有無に関わらず、発生することを考慮すれば、コロナ禍における訓練としても有意義な内容の取組であった。生徒の取組む様子については毎年感じることはあるが、地震や津波に対する意識は高いと感じる。これは地域柄、津波被害に直面している事が幼少期から教育や地域や家庭からの教えによって身に付いているものと思われる。このようなベースとなる意識のもとで行う防災教育は必ず有意義なものであり、有事の際には行動や判断に活かされる事が期待できる。

【課題】

昨年も課題としてあげたが簡易トイレや段ボール間仕切りなどのテーマを増やし、より多くの内容を学ぶ機会としたい。しかし、今年度はコロナ感染防止を踏まえての防災スクールのため、テーマを増やすことは困難であった。

今後はさらに充実した内容を取り入れ、実際の現場で活躍できる人材の育成に繋げる事を目指したい。